



東京本郷ロータリークラブ週報



2014-2015 年度 国際ロータリーテーマ 「ロータリーに輝きを」
東京本郷ロータリークラブテーマ 「地域社会に密着した奉仕活動を推進しよう。」

創立/平成3年3月13日(1991年)
事務局/〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-6-905 電話:03-3238-5350 FAX:03-3238-5352
インターネットホームページ: <http://www.t-hongo-rc.gr.jp> E-mail: office@t-hongo-rc.gr.jp
例会:毎週水曜日12時30分 例会場:ホテルメトロポリタンエドモント 電話:03-3237-1111
〒102-8130 東京都千代田区飯田橋3-10-8
会長:柴山修一 副会長:大住省一 会長エレクト:河合 洋 幹事:松岡 浩 会報委員長:飯田美里

9月24日 第1107回例会

2014年9月24日発行(No.1063)

本日の例会

ビュッフェ例会
— 会員懇談 —

次回の卓話(10月1日)

「ゴルフから見る日本」
ジャーナリスト 大宅 映子 様
紹介者 伊藤 守会員

卓話

9月17日 第1106回例会報告

紙芝居「夏目漱石物語」

NPO法人 漱石山房

理事 宮澤 陽子 様

紹介者 加藤利雄会員

「内容を録音したデータが事務局にあります」



紙芝居をお話しされる宮澤陽子様

会長報告

1. ロータリー文庫より、2013-2014年度の決算書が届きましたので、回覧いたします。

2. ロータリー財団への寄付の件、2013-14年度の集計が発表され、年次基金への寄付額の前年度比が、第2580地区は115.58%で、日本の34地区中、第3位となった事のお礼の報告がありましたので、お知らせ致します。

幹事報告

1. 第1ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーターの渡辺氏から「コーディネーターニュース」2014年10月号が届きました。
各テーブルに配布しましたので、ご覧下さい。
2. 青少年奉仕情報をメールボックスへ配布いたしました。「第2回 東京ドーム少年野球大会」の記事が掲載されていますので、ぜひご覧下さい。
3. インターシティ・ミーティング用に依頼しましたアンケートを未回答の方は、本日、各テーブルに配布いたしました回答用紙にご記入をお願いいたします。
記入後、テーブルに置いていただければ、例会終了後に事務局が回収いたします。
当日、欠席される方もアンケートにご協力下さい。

出席

会員数:52名 欠席出席免除者:5名 出席数:36名
欠席数:11名 出席率:76.59%
9月3日修正後出席率:87.76%
ビジター:1名
クラブゲスト:宮澤陽子様(卓話講師)

ニコニコBOX

* 新里時夫会員

急に涼しくなり気持ちの良い日々になりました。筑波大の森のセミが鳴かなくなりました。本日は所用で早退します。

* 飯田美里会員

仕事で、欠席して申し訳ありません。

* 清水卓治会員

妻の誕生祝ありがとうございます。シミズオクト千葉スタジオの庭先で氣志團万博コンサートが行われ、大盛況でした。

* 柴山修一会員

キャプテン杯、ベスト8までいきましたが、終わってしまいました。残念です。

ニコニコBOX	19,000円
累計	323,000円

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

「青少年交換のホストファミリーを探すには」

ロータリー・ニュース：2014年9月15日

子どもが12人（女の子6人と男の子6人）いるメキシコのラボード一家。子だくさんのこの一家に、40年前、アメリカからやってきた青少年交換生がジュリア・マリキンさんでした。マリキンさんは、40年以上経った今でもラボード一家との交流を続け、この一家の本当の娘のようになりました。ラボード一家の娘の1人であるマリア・ラボードさんは、マリキンさんについて「私たち家族の宝物」と言います。その理由の一つとして、ラボードさんの妹（または姉）が特殊な重病と診断された際、マリキンさんがアメリカからこの病気に必要な薬を取り寄せるよう奔走したことがあります。「妹は余命1年と診断され、メキシコにはこの病気に効く薬がなかったんです」と当時を振り返るラボードさん。「そこで、弟がジュリアに電話をすると、彼女はすぐに、アメリカから薬を手に入れる手配をしてくれました」。その結果、この妹はそれから30年間、生き続けることができました。現在は、カンカキー・ロータリークラブ（米国イリノイ州）会員であるマリキンさんは、これまで長い間、（自分が）交換留学したメキシコの地域社会に恩返しをするための活動をしてきました。例えば、米国とメキシコのクラブ間での補助金プロジェクトで、学用品や医療品を寄贈するといった活動もその一つです。このマリキンさんの例は、青少年交換プログラムが、異なる文化を体験し、世界理解を深める機会を提供する素晴らしいプログラムであることの証です。しかし現実には、クラブがホストファミリーを見つけることに苦労することもしばしば。最近行われたリンクトインのディスカッションで、ホストファミリーを見つける際のヒントが紹介されましたので、詳細については、<https://www.rotary.org> のロータリーニュースをご覧ください。

「大地震発生の際“とっさ”の時どうする？」シリーズ④

近藤博隆会員

2011年3月11日東日本大震災の被害状況は、3年半経過した今でも多くの皆様の個々の事情が絶えず報道されており、その物心両面のご苦勞を知るにつけ心が痛んでいます。

大震災は総括してとか、全体としてとか、ではくれないのです。

悲惨さは被災された多くの方々のそれぞれだからです。時折、新聞に「首都直下地震4年内70%」という大きな見出しの記事があります。皆様はどのように受け取られたでしょうか。4年内とはこの私の記事をご覧になっている今も、すぐ明日も含まれるのです。

専門家の地震予知の研究も努力を重ねて折られますが研究の終着点は見えないのです。そこで私は「どれを信じたらよいかどうかに左右されず災害大国に住む私たち、普段の備えは自分達のもので」と呼びかけさせていただきます。

1. 外出中（旅行中みたいな場合）現在自分がどういう場所（位置）にいるかわからなくなった場合。
 - (1) 住宅地なら被災した家々が傾いている方が「南」また、腕時計を水平に持ち短針を太陽に向け（太陽が見えないときは駄目）その際の太陽光の方向（短針と一致させたので）12時の中間が「南」です。

(注) 日本の家屋で地震の揺れに弱いのは壁量が最も少ないのが南側であるため、また、戸建の家屋群を見ると南の方に向かって被災時傾く家が多く見られるからです。
 - (2) 自分の現在地を確認しないまま自分の勘（自分の思い込み）だけでその方向をただ歩けばいいというのは問題です。方向を間違えていれば歩けば歩くほど、益々わからなくなり、かつ徒勞は健康上心身ともに根気を失われてしまいます。
 - (3) 水を求めるとかトイレの差し迫った必要切迫の場合
大きな道路に出てガソリンスタンドを探す、その他コンビニ、郵便局、ファミレス、公立学校、市役所など公共の建物を探す。
 - (4) 野山を歩いていたりときに大きく揺れた場合
 - ・身の回りを見回し、もし斜面の下を歩いていたときなどは上の斜面から落ちてくる岩など、危険物の落下の有無をまず判断し、その被害にあわないようにする。
 - ・足元の道が崩れたり先方の交通遮断状況が起っていないか監視し進退を判断する。
 - ・橋を渡っていた場合（すぐわたり切れる短い橋の場合を除く）は手すりですぐまず身体を支え、低い姿勢をとり、どうするか判断。特に橋と取り付け道路との付根は危険なので、よりつかないこと、すぐ離れる、そして全体を見定めて早く橋を離れたい。
 - ・山崩れ、地すべりには「ゴッー」とか「ザワザワ」の音がするので、その兆候を取り逃がさないこと。

以上